



困難な時 異種業での助け合い

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

NMCAA
NO3

熊本県天草市で、新型コロナウイルス不況でブリやマダイ、エビが売れずに苦しむ加工業者や養殖業者、お客が来なくなつて従業員雇用で頭を抱えるホテルなどが協業して、魚の冷凍弁当を販売する新たなビジネスを生み出した。天草市で魚類加工・販売を手がける深川さんの会社では、人手不足が深刻だった。地元観光協会の会合でホテルの社長がキャンセルが相次いで、スタッフを交代で休ませているという話を聞いて協力の話を持ちかけたところ、「それはよかね」。意外にも二つ返事で引き受けてもらえた。来てくれた中にシェフがいたことから、冷凍弁当構想が浮上。急ピッチで開発が進んだ。構想からわずか2週間ほどで開発が終わりウェブサイトで販売をスタートする。また、ひとり親家庭の子ども向けに無償提供を始めた。深川さん自身も5児を育てるシングルマザーで、会社のスタッフにも子育て中の人が複数いる。保校になつて、特にお昼ご飯に困っている」

ことは、みんな熟知していた。子どもたちにはアンケートに答えてもらい、今後の弁当開発に生かす。無償での提供だけど、商品開発に協力してもらっている。そう考えています」。ヤフーニュースダイアンモンドオンラインより)

助け合いマルシェ

新型コロナウイルスに負けないように、イベント「コロナに負けない！助け合いマルシェ」同実行委員会主催が24日秩父鉄道秩父駅前が始まった。休校や行事の中止、観光客の減少により影響を受けている地元業者の商品を購入して盛り上げるのが目的。税込み500円のワンコインで、飲食店の特製弁当や農産物などが販売され、にぎわいを見せた。新型コロナウイルスの影響で、秩父地域の飲食店や農家は大きな影響を受けている。春の観光シーズンを前に、商店などの経営悪化が懸念されており、今できることをやっていこうと、イベントを開くことに。子どもたちの食事を用意し、

保護者の負担を軽減させることも狙っている。

感染拡大防止のため、会場は屋外とした。ワンコインのテイクアウト商品のみとする。ことで、接客時間の短縮を図った。同実行委員の島田憲一委員長は「予想以上に人が集まったが、皆が個人的に何かをやりたいという気持ちがある。これからはできるだけ混まないように工夫して続けたい」と話していた。埼玉新聞)

編集後記

みんなが困っている。と知っている時、普段はないことで、協力できるし、協力することでお互いに誰かのためになることができます。ののだと思いましたが、人が協力体制となつた時、できることは大きいと感じました。